

議 事 録

会議の名称	令和7年度第1回三田市行政評価委員会
開催の日時	令和7年6月19日（木） 18時30分～20時00分
開催の場所	三田市役所本庁舎3階庁議室（オンライン併用）
出席した委員の氏名	赤澤委員長、馬場副委員長、中村 匡秀委員、中村 倫章委員、福田委員、大坂委員、菊川委員、小林委員
欠席した委員の氏名	本田委員、稲富委員
出席した庶務職員の職及び氏名	西垣戸総合政策部長、高木総合政策部次長、後尾政策課長、鳴瀧政策課係長、濱山政策課事務職員
その他出席者	無し
傍聴者の人数	無し
議題	<p>(1) 会議の公開について</p> <p>(2) 行政評価のながれと委員会の役割について</p> <p>(3) 三田市での暮らしと幸せ実感度調査_調査結果速報について</p> <p>(4) 事前評価及び事前質問について</p> <p>(5) 審議</p> <p>① ヒアリング対象施策について</p> <p>② その他意見交換</p>
会議の概要 (結論)	<p>(1) 行政評価のながれと委員会の役割について確認</p> <p>(2) 三田市での暮らしと幸せ実感度調査結果速報について</p> <p>(3) 令和7年度行政評価（内部評価）に対する各委員からの評価結果について</p> <p>(4) 「7.若者が集うまち」「16.農業の振興」「18-1.三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」をヒアリング施策とした。</p>
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・行政評価委員会委員名簿 ・資料1 令和6年度実施行政評価【内部評価】調書 ・資料2 令和6年度 三田市市民意識調査結果報告書（一部抜粋） ・資料3 行政評価のながれと委員会の役割について ・資料4 諮問書（写し） ・資料5 会議の公開について ・資料6 進捗事前評価の状況 ・資料7 事前質問一覧 ・資料8 三田市での幸せ実感度調査結果速報 ・第2回会議向け質問票 ・座席表

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料A 三田市行政評価条例 ・資料B 三田市附属機関の設置に関する条例 ・資料C 三田市行政評価委員会規則
連絡先	総合政策部 政策課 電話 (079) 559 - 5038 内線 2212

1 開 会

- ・高木総合政策部次長の司会により開会、配布資料の確認等

2 議 事

(1) 会議の公開について

＜事務局から資料5に基づき説明＞

＜委員長より、会議録の記名方法について、「委員長」、「副委員長」、「委員」と表記することでよいか確認。(異議なし)＞

(2) 行政評価のながれと委員会の役割について

＜事務局から資料3に基づき説明＞

(3) 三田市での暮らしと幸せ実感度調査について

＜事務局から資料8に基づき説明＞

(4) 外部評価の実施について

＜事前評価の状況、事前質問、外部評価の進め方について、事務局から資料6、7に基づき説明＞

① 事前評価の状況、事前質問についての審議

委員長：本日、ヒアリング対象として3事業を決定し、第2回行政評価委員会でヒアリングを実施する。審議にあたり確認したいことはあるか。

委 員：幸せ実感度調査について、調査対象人数は十分だと感じるが、10・20歳代の回答が非常に少ない。若年層が参加するような仕組みを検討してほしい。

副委員長：市政参加市民名簿登録者へ郵送して調査を実施したが、名簿登録者に若者が少なく、調査対象年齢に偏りがあるのではないか。理想は、三田市の年齢別男女構成比率で調査すること。他市ではネットアンケートが主流なので今後の参考にしてほしい。

委員長：意志をもった人からの意見しか聞けないという根本的な問題があるためランダムサンプリングが重要。集計で終わりではなく、分析をしっかりとすることで証拠に基づく政策立案ができるのでは。

委 員：データサイエンスのリカレント教育をお勧めしたい。

委員長：次にヒアリング対象事業を選ぶ視点について共有したい。1つ目は、極端に評価が低いもの。この視点では、「16. 農業の振興」。2つ目は、評価が分かれているもの。この視点では、「6. 学校教育の充実」「9. 地域医療の安心」「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」。これらを幸せ実感度調査結果に照らし合わせると、重要であるが満足度が低いものに「6. 学校教育の充実」

「9. 地域医療の安心」が該当する。「16. 農業の振興」は、重要度も満足度も低い。「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」は、デジタル田園都市国家構想交付金（以下：交付金）を活用した事業であるため、この調査結果には入っていない。これらの視点や評価は別にしてヒアリング対象としたい事業はあるか。

委員：自分は20歳代であるため、幸せ実感度調査結果を見て20歳代の満足度が低いことが気になる。今後三田を支える若者の力は重要で、若者の三田に対する満足度は今後も課題であると考えするため、「7. 若者が集うまち」をヒアリング対象としたい。

委員長：幸せ実感度調査において、幸せ実感度が1番低い20歳代の傾向について事務局で把握しているか。

事務局：その部分についての集計はできていない。

委員長：若者向け施策の視点では、「7. 若者が集うまち」が候補になるのでは。三田市は早くから市民との協働に取り組んでいるが苦戦されているところもある。そのようなところに、この委員会からアドバイスができれば非常に有益だと思う。他の意見はあるか。

委員：「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」と「7-1. 地域活躍人材プログラム三田スモカモス・プロジェクト」はどちらも、まちをリードする人材を育成する目的だと思う。同じ目的であるのに、「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」は、フラワータウン住民に限定し、「7-1. 地域活躍人材プログラム三田スモカモス・プロジェクト」は若者を対象としている。併せた取り組みにできないのか。

委員長：「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」は、令和7年度交付金の申請はしていないが取り組みは進めていく。「7-1. 地域活躍人材プログラム三田スモカモス・プロジェクト」等ほかの事業にどう溶け込ませていけるか議論したい。

委員：「16. 農業の振興」について、昨年も当委員会における評価が低い。農業を取り巻く環境が厳しいなかで、指標の立て方が正しいのか、数値目標を達成できるのか気になる。地域計画等で地域と調整しながら進めていかなければならない部分もあるのでヒアリングしたい。

委員長：マイナス評価が多いものについて、目標設定値に誤りがあるかもしれない。令和9年度からの第5次三田市総合計画（後期）策定にあたり、それらに対して意見を言えると思直すきっかけとなり、いい視点だと思う。現時点では「6. 学校教育の充実」「7. 若者が集うまち」「16. 農業の振興」「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」が候補。「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」は、「7. 若者が集うまち ①移住促進事業」にどう溶け込ませるかという観点でヒアリングしてはどうか。「6. 学校教育の充実」は2年連続ヒアリング対象。課題を聞くと簡単には変えることができないものだと感じたため今年度再びヒアリングをしても状況は変わっていないのではな

いか。

副委員長：重要度は高く、満足度の低い「25. 行政経営」はどうか。過去ヒアリングしていない。

委員：「7. 若者が集うまち」も満足度が低い。

副委員長：重要度は最も高く、満足度の低い事業は「9. 地域医療の安心」である。

委員長：「9. 地域医療の安心」は、過去2年ヒアリング対象外。病院統合の話が進んでいるが、中身が定まっていない段階でヒアリングするのは難しい。

委員：「7. 若者が集うまち」の進捗事前評価について、5年度A評価であったのに、6年度C評価まで下がっていることはかなり問題だと思う。

委員長：昨年から評価が大きく下がっているものにフォーカスすることはいいかもしれない。

委員：「7. 若者が集うまち」について、自分の孫や周りの若い人たちも三田は面白くないと言っている。大学で三田市を出てそのまま就職してしまうケースも多い。三田市が若者にとって楽しいまちになってほしい。「9. 地域医療の安心」について、民生委員・児童委員をしており高齢者から、重症の場合は神戸の病院へ搬送されたり、バスの本数が少なく通院も大変だと聞く。住民が安心できる回答を市に求めていきたい。

委員長：重要度が高く、満足度が低い事業は断トツで「9. 地域医療の安心」。この行政評価委員会は、これまで進めてきた施策を評価する場なので、行政評価調書に記載された以外の内容や現状をヒアリングすることは難しい。

委員：「7. 若者が集うまち」について昨年度もヒアリングを行ったが、市としてしっかり考えてほしい。三田市には、関西学院大学、湊川短期大学等の学校があるが、若者が市内から少なくなることは、財産がなくなることと同じだと思うので、「7. 若者が集うまち」についてヒアリングを実施したい。委員から「3. 健康づくり」について事前質問があったが、市民も健康について重要視していると感じる。三田市内で安心して医療が受けられると市民の評価も変わってくるのではないかと思う。

委員：「7. 若者が集うまち」「9. 地域医療の安心」について市民の立場としては意見を聞きたいが、成果指標を見る限りでは、行政は努力されていると感じる。若者が三田に戻ってきたいくなる楽しいまちになってほしいと思うが、「7. 若者が集うまち」の成果指標は、移住相談窓口件数や0-4歳児童数となっており、取組名と指標に乖離があると感じる。

委員長：様々な意見が出たが「16. 農業の振興」は確定でいいか。

副委員長：昨年度ヒアリングを実施していないので対象としていいと思う。

委員長：「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」は、交付金申請をやめるので、今回ヒアリングできる最後のチャンスとなる。今後どのようなところに注力して取り組んでほしいか等を伝えたい。「9. 地域医療の安心」は、委員による進捗事前評価では、Aを選んだ人が4人、Cを選んだ人が2人と意見が割れている。「7. 若者が集うまち」は、成果指標に課題があるという意見があった。この委員会としては「9. 地域医療の安心」よりも「7. 若者が集うま

ち」をヒアリング対象とするほうがよりいい議論ができると思う。

委員：先ほどの議論にもあったが市民が「こうなったらいいな」と思う指標と市の指標にズレがあると感じる。「9. 地域医療の安心」について、内部での評価は高いが、市民アンケートでは重要度は高く満足度は低い。「7. 若者が集うまち」と「9. 地域医療の安心」のどちらかを選ぶなら、施策を聞くという観点から選ぶといいのではないか。

委員長：事前質問があまり出ていないが、ヒアリングするなら我々も事前に質問を準備する必要がある。「7. 若者が集うまち」「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」は、本日皆さんの意見を聞いて、第5次三田市総合計画（後期）に向けて他の関連施策にも、一体的に取り組むべきこと等の意見をいただけたと感じた。ヒアリング対象としてよろしいか。

全委員：了承。

委員長：ヒアリング対象は、「7. 若者が集うまち」「16. 農業の振興」「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」とする。第2回行政評価委員会に向けた事前質問の受付はいつまでか。

事務局：6月25日（水）でお願いしたい。

委員長：本日説明を受けた内容と他委員の意見を踏まえて質問を考えてほしい。ヒアリング対象となった3事業以外についても、ヒアリングはできないが、書面で回答をもらえるので今後の市政に反映いただくことに期待して検討してほしい。

・次回は7月16日（水） 18時30分から開催する。